

[別紙②] 3年社会科（公民的分野） ワークシート「情報化社会」

〈めあて〉

ネット上での「誹謗・中傷」を減らす・無くすための「具体的な取組」「社会実験」について調べ、その方法の意義・課題点についてまとめ、交流する。ただし、「個人の意識を高める」「厳罰化する」以外で調べること。

① 自分が調べたこと
② その方法の意義
③ その方法の課題点
④ 他者からの評価
⑤ 自分の感想

3年 名前（ ）

〈生徒の感想より〉

他人に言われて「やっぱり…」となるよりは自分で気づくことができるアプリがあるのは良いことだと思います。でも書き込もうとする人がゼロになることを最終目標にしていくともっと良いなと思いました。調べてみると「法律を変えるべき」という声を多く見かけました。それも大切な1つかも知れませんが、情報化社会の中で生きていく私たちが、誹謗・中傷などによる書き込みの深刻さをしっかりと受け止め、自分たちにとって身近な問題だと分かっておくべきだと思います。

AIで削除していった誹謗・中傷のコメントが少なくなるのはいいと思いますが、それだけでは完全に無くすことはできないと思います。やはり一人ひとりの意識であったり、「やってはいけない」という自覚がないと誹謗・中傷のコメントは無くならないんじゃないかと思いました。

ドイツの大手SNSの事業者に対して誹謗・中傷のコメント削除や苦情対応の状況報告を義務化するのは確実に良い対策だと思いますが、削除・苦情対応しなかった場合の過料が約60億円と高額なので、オーバーブロック（削除しすぎてしまう）が起きてしまったら怖いなと思いました。誹謗・中傷以外に、ヘイトスピーチでも同じように削除・対応する対策がされていることが分かって良かったです。

今回調べてみて、誹謗・中傷を無くすためには、強制的にやめさせるのと、個人の意識を変えていくこととのバランスが難しいと思いました。自分自身、「悪口」と「批判」の違いを認識することが大切だとわかりました。これからの教育では、道徳のテーマもそういう内容にしていけばいいと思いました。

SNSの投稿前に、内容の再考を促すアラート機能を備えたAI検知サービスで93%の人が投稿を思いとどまったということなのですが、残りの7%をどうすればいいかが分かりません。

相談窓口で削除依頼しても、削除は運営サイドに委ねられているからそこが課題だと感じました。自分が調べた中で効果が一番あるのは、「運営会社が保有する発信者の情報を被害者が開示請求できる権利を規定すること」だと思います。特に14歳以上は感情に任せて過ちを犯すことが許されない年齢なので、行動・発言に責任を持つべきだと思います。